

国際根拠地建設

世界革命戦争||七〇年前段階武装蜂起貫徹

2/7 赤軍派武装蜂起 関西集会

日 時 二月七日 午後五時
場 所 森の宮市立労働会館（大阪）
主 催 共産主義者同盟 赤軍派

全関西の革命的同志諸君／労働者・学生諸君／11月前段階武装蜂起の敗北から2ヶ月の後退—再武装の時期を経て、共産主義者同盟赤軍派は再度の進撃を開始した。既に東京での1月16—18日の武装蜂起集会—全国全共闘集会への登場によつてそれは開始されたのである。

われわれは前段階武装蜂起の敗北の総括からより鮮明な世界革命戦争—前段階武装蜂起||世界党—世界赤軍—世界革命戦線の路線を主張し、それを国際根拠地建設—70年前段階武装蜂起貫徹||世界、日本の党派闘争の断乎たる遂行の任務として確定する。

'68～'69年の世界階級闘争、ベトナムの革命戦争を主軸に未曾有の高揚を示しつつも、闘いが権力をめぐり、したがつて軍事に到達したが故に、各國の攻防の力関係に規定されつつ停滞し解体され後退している。だが、現在世相の矛盾と危機が、軍事的攻防を主要な形態とする階級戦争によって表現される時代に到達した事を確認せねばならない。ピアラ・ベトナムに見られる後進諸国の階級戦争の一層の拡大深化、ネール、スカルノ、エンクルマ、ナセルの没落に象徴される中進諸国の崩壊と混乱、フランス、ドイツ、アメリカ、日本での蜂起を指向する即時の武装闘争の開始による先進諸国の構造的危機の顕在化、そして労働者国家の一国プロ独立建設の限界と世界プロ独立線の喪失による分裂と新たな党内闘争の開始、これらが現代世界の特微的な動向である。世界階級闘争のかかる成熟と、にもかわらずその一国分散状態が、帝国主義者のプロレタリアーントの包囲解体から労働者国家に対する包囲解体へ向けた侵略・反革命・なし崩しファシズムの推進を容易ならしめている。これは体制間戦争への帝国主義者の準備過程でもある。

かくて、現代革命の核心は、各国蜂起—一齊蜂起を世界革命戦争として実践的に準備し開始することに他ならない。したがつて、全ての領域のあらゆる闘いが蜂起—世界革命戦争の開始に向けて、その準備のために計画されねばならない。この闘いの世界的・歴史的完遂の指標、すなわち世界プロレタリアートの世界プロ独立・共産主義への永続的な指標こそ、世界党—世界赤軍—世界革命戦線の獲得である。

現代過渡期世界の革命の現実性とその勝利の展望がどのように獲得されるのかをめぐる党派闘争は、国際共産主義運動史上のどの時

代よりも深遠な段階を迎えている。さまざま試みや思惑が入り乱れ、無数の日和見主義・アナーキズム・テロリズム・教条主義・経験主義がからみあつてゐる。混乱の原因は何か？ それは世界階級闘争の幾多の高揚にもかかわらず、各國の勝利的展望の不在、つまり世界革命戦争の勝利こそが各國の勝利であることをいかに戦略的に、実践的に獲得し実現するかが不明であることに起因している。

一国的蜂起は、その頂点に登りつめるや否や直ちに永続性の限界から可避的に解体し、敗北を結果するのである。そして我々にて問題は次のように整理され回答が与えられてきたのである。世界革命戦争の即時的で未熟な段階を①国際根拠地を獲得し、世界赤軍派へ自らを止揚し、各國支部を建設し国際根拠地と結合した各國武装蜂起の軍隊の建設、敵軍隊の解体を実現することによつて「第三の道派」における国際的分派闘争を開始することであり、かくして理念や一般性の世界から地上の世界革命戦争の「防禦—対峙—攻勢」の展開の現在的位置を、世界革命戦争の計画された各國前段階蜂起によって、單一の世界革命戦争の防禦から対峙へと飛躍せしめることにある。

世界革命戦争の即時的で、未成熟で、非均質的な発展の現実を、各國前段階蜂起の計画された展開によつて質的差異を統合し止揚し、世界革命戦争を対峙の段階に転化せしめ、遂には「労働者國家」をも内に含みつつ、中国・ソ連内部にも我々の支部を建設し、最終的な攻勢を準備しなければならないのである。

八派旧新左翼現代カウツキー主義者どもは、何らの総括もせぬまま、権力によって、未だ、その最後の息の根を止められなかつたことを幸いに、又々、旧来の大衆運動の延長に革命の夢をえがこうとしている。彼らこそ空論主義者である。その最たる潮流が、素朴肉体派中核であり、何はともあれ彼らを武装蜂起の雄たけびによつて解体し尽さねばならない。

我が赤軍派は、大菩薩峠以後、戦略的後退を忍び、浮上の為のあらゆる活動を試みてきた。そして今や、組織内部の整備を終わり、70年武装蜂起貫徹に向い再び憎むべき敵権力に宣戦を布告する。

前段階蜂起万才／
武装蜂起集会に結集せよ／